



兵庫医科大学病院  
川村 美貴先生  
MIKI KAWAMURA

川村美貴と申します。大阪大学神経内科・脳卒中科に入局後、15年ほど脳卒中の急性期診療に従事してきました。脳卒中の症状は百人百様ですが、極論を言えば、脳血管が切れるか、詰まるかするだけの疾患なので、急性期治療後の内科診療は通り一遍になりがちです。いつしか、内科診療の限界を感じるようになりました。リハビリテーション科と接する機会も多く、より深く広く個々の病状や環境を把握し、臨機応変に訓練や環境調整などを行う姿を見て、自分も患者に対してそうした関わり方をしたいと思うに至りました。この度、転科し、2023年12月に兵庫医科大学リハビリテーション科に入局いたしました。診療に対するアプローチからして違うので、一から学ばせていただく所存です。ご指導・ご鞭撻のほど、宜しくお願いいたします。



兵庫医科大学病院  
青柳 貴之先生  
TAKAYUKI AOYAGI

2024年4月より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局しました青柳貴之と申します。医師としては9年目であり、昨年まで呼吸器内科医として働いておりました。出身大学は京都大学で初期研修を日本赤十字社和歌山医療センターで修了した後、大阪赤十字病院・兵庫尾立県立尼崎総合医療センター・住友病院で働いておりました。内科治療での投薬のみでは患者さん個人に適した診療や病状の把握・病状の共有には限界があるように感じ、身体機能評価やその向上のアプローチを学んだ上で、これからの医療資源が制約を受けてくる医療業界の中で役立つことができればと考えております。至らぬ点があるかと思いますが宜しくお願いいたします。



兵庫医科大学病院  
勝盛 拳人先生  
KENTO KATSUMORI

2024年4月より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました勝盛拳人と申します。私は徳島大学を卒業後徳島県内の病院で初期研修を修了しました。初期研修2年間のうち急性期医療・回復期医療・地域医療を経験する中で、疾患だけでなく患者さんの活動・生活まで診れる医師になりたいと思い、リハビリテーション科への入局を決めました。医学的な知識・精神的にもまだまだ未熟で至らぬ点多々あると思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



兵庫医科大学病院  
大川 建志先生  
TATSUSHI OKAWA

2024年4月より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました大川建志と申します。兵庫医科大学を卒業し、済生会茨木病院で初期研修を修了しました。私自身、11歳の頃にAVMによる脳出血を発症し左半身麻痺の障害を負いました。その際、色んなリハビリのスタッフの皆様のお陰で日常生活に復帰することができました。その経験から自分と同じように身体に不自由を抱える方々の苦悩に寄り添い、元の生活に戻っていけるような手助けが出来ればと思いリハビリテーション科を志望いたしました。至らぬ点多々あると存じますが、精一杯努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



洛西シミズ病院  
露口 直樹先生  
NAOKI TSUYUGUCHI

今年度より兵庫医科大学リハビリテーション科に入局させていただきました露口直樹と申します。金沢医科大学を卒業し、大阪公立大学医学部付属病院にて2年間の初期研修を修了しました。治療を終えた先にある、患者さんの生活に興味があり、長期間患者さんと関わる部分に魅力を感じリハビリテーション科を専攻させていただきました。今は業務になれることで精一杯ですが、一歩ずつ精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

# CRASEED NEWS



No.56

発行：NPO法人リハビリテーション医療推進機構CRASEED／年3回発行／第56号(2024年6月3日発行)  
〒560-0054 大阪府豊中市桜の町3-11-1 関西リハビリテーション病院内 TEL:06-6857-9640 <http://craseed.org>

## 災害とリハビリテーション支援

### 能登半島地震におけるJRATの活動について

令和6年能登半島地震にて被災された皆様におかれましては、心よりお見舞い申し上げます。

日本災害リハビリテーション支援協会(JRAT: Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)では、災害時に支援チームを派遣し、被災者の身体的・精神的な回復のサポートや自立生活への支援、災害関連死等の予防に努めています。今回実際に被災地へ派遣された先生のお話をお伺いしました。



令和6年1月1日16時10分、石川県能登半島地方を震源としてマグニチュード7.6の地震が発生しました。被害状況は甚大で死者241名(うち災害関連死15名)、家屋への被害は全壊8010、半壊13990となっています。発災の瞬間、兵庫県相生市にある実家で私は正月を家族と過ごしていました。地震発生直後よりTVでは珠洲市のライブカメラの映像流れ、砂煙とともに家屋が倒壊の様子が映し出されていました。



発災後の時間経過とともに被害の状況が次々と報道され、間違いなく災害リハビリテーションの支援が必要になる状況であることがわかりました。1月7日には全国地域JRAT代表者会議が開催され今後の能登半島地震に向けた支援が正式に発表されました。兵庫JRATとしても各職能団体を通じて支援メンバーの募集を開始しました。私自身は1月23日から26日までの4日間の現地派遣が正式に決定し兵庫JRATとして最初の支援チームとして現地支援に入りました。チームメンバーはPT2名、OT2名、Dr1名の計5名、私個人は熊本の震災、西日本豪雨での現地支援に続き3回目の現地支援になりました。厳冬期1月の北陸での支援であること、家屋の倒壊や交通網も非常に被害を受け、現地までの移動にも制限があること、インフラの回復が遅く、特に水が自由に使えないという現地の状況は不安でしたが、1月22日に金沢に入り、23日にJRAT現地対策本部でのオリエン

テーションの後、七尾本部に移動、派遣先となる珠洲市の状況やJRAT支援の現状を把握して宿泊先となる公立穴水総合病院へ移動、病院スタッフとの顔合わせの後、珠洲市保険医療福祉調整本部へ入りました。JRATとしては2チーム目の現地支援であり、珠洲市での活動スキームが確立されていなかったため、後発隊の現地支援が円滑に進むよう、活動目標を珠洲市における避難所の環境アセスメント、避難者の生活不活発病の予防、他の支援団体との連携スキームの確立、その他珠洲市におけるJRATニーズの把握としました。3日間の珠洲市での支援は避難所になっている4つの小中学校の環境アセスメントと地域に根付いているシルバーリハビリ体操を通じた生活不活発病の予防、他団体との連携スキームの確立を行いました。3日間の支援の後、珠洲市に入りJRATの後発隊に申し送りを行い金沢市に戻りました。最終日は1.5次避難所となっているスポーツセンターでの支援を行い、現地での支援を終了しました。



地震によって住居を失い、インフラが制限された避難所での生活は活動が大きく制限されます。兵庫県においても南海トラフ地震への備えが必要です。災害大国の日本においてJRATの活動は重要な活動になっています。興味を持たれた方は各県に設置されている地域JRATの活動にぜひ参加してみてください。

西宮協立リハビリテーション病院 勝谷 将史 先生

# 呼吸理学療法実践セミナー

待望の  
現地開催復活

## >>> 4年ぶりの対面講義—講師の視点から

2024年1月1日に能登半島地震が発生、240余名の尊い命とインフラをはじめとする甚大な災害が襲いました。災害復旧の進展が見られない2月23・24日の両日に2023年度呼吸理学療法実践セミナーが開催されました。本セミナーはコロナ感染症の影響に伴いWEB開催が続いていましたが、本年度は4年ぶりに対面形式で開催となりました。

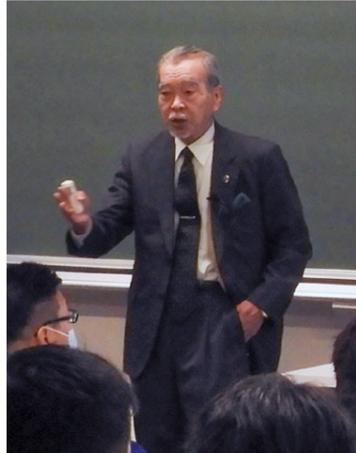
受講生は両日ともに定員超過の80余名で、職種はPT・OT・ST・Nsと多岐にわたりました。内容は1日目評価編で午前中に呼吸理学療法実施にあたって最も重要で必要不可欠なフィジカルアセスメントである視診・触診・打診・聴診について講義を行いました。午後からはフィジカルアセスメントの実技をモデルに対してデモンストレーションを行った後に二人一組（患者と術者）で講師とインストラクターによるマンツーマンでの懇切丁寧な指導で完全マスターを目指しました。二日目実践編では午前中に急性期および慢性期の病態から様々な臨床症状に対する呼吸理学療法の実践について講義で解説しました。午後からは一日目と同様に呼吸



眞淵講師によるマンツーマン指導

介助手技・肺炭手技・俠客ストレッチ・運動療法について評価編と同様に納得理解できるように入念な指導に努めました。

受講生の多くが実践セミナーの大きな特徴である実技における評価技術や治療手技の習得に重きをおいていました。講義では見られない生き生きと習得に取り組む姿は指導者として感動と喜びに満ち溢れたものでした。これはWEB形式では受講生の反応を感じ読み取ることが中々できません。対面形式では受講生は講師によるマンツーマンの直接指導の中で五感を駆使し「視て触れて聴いて」を理解しながら技術の習得が可能となります。講師も指導する中で受講生の理解度や習得度を評価することが可能でリアルタイムで修正し適切に指導を促すことができます。CRASEED各セミナーの特性に応じた開催形式を再検討する必要性を感じました。



みどりヶ丘病院 眞淵 敏 先生

## >>> 厳寒の折の“熱い”指導

2024年2月23日から24日、呼吸理学療法実践セミナーに参加いたしました。

まだまだダウンコートが手放せない寒さでしたが、北海道から長崎までの全国より、PT・OT・看護師・医師と職種を超えて、80名以上集まりました。ベテランの方や、繰り返し受講されている方もおられましたが、「〇〇先生の指導を是非受けてみたい」といった熱い声も聞こえ、開始前から会場は熱気に包まれていました。

初日の評価編、最初は眞淵敏先生から「視て触れて聴いて解るフィジカルアセスメント（視診・触診）」と題し、視診・触診の具体的なポイントについて、解剖学や呼吸生理学をベースに、豊富な写真や図で解説いただきました。深いご経験に基づく、ハッとさせられる話も多く、診る目の大切さを考えさせられました。

二つ目の講義は笹沼直樹先生の「打診・聴診」でした。実際の音声や動画を交えて、機序、方法、エビデンス、解釈まで、詳細にご説明いただきました。普段、何となくやってしまっていた手技について、改めて深く学ぶ良い機会となりました。

午後からの実習では、講師陣からご指導いただきつつ、二人一組でお互いに診察しました。胸郭の触れ方、打診の手の当て方など、要所を抑えつつ、午前からの講義内容を即、試すことができ、非常に楽しい時間でした。

二日目の実践編は森沢知之先生の「急性期の呼吸理学療法」から始まりました。呼吸不全の病態や文献に基づいた、急性期での評価

から訓練プログラムの構成に至るアプローチ、吸気筋トレーニングなどについて、論理的に私見を交えつつ教えていただきました。講義の締めは、眞淵敏先生の「呼吸理学療法の理論と実際 -慢性期-」でした。COPDを中心に、栄養障害、サルコペニア、運動量減少が悪循環する病態、実際の運動療法について、ご指導いただきました。運動処方の方針的な考え方から始まり、中々聞けない診療の本質に迫る貴重なお話を伺えました。

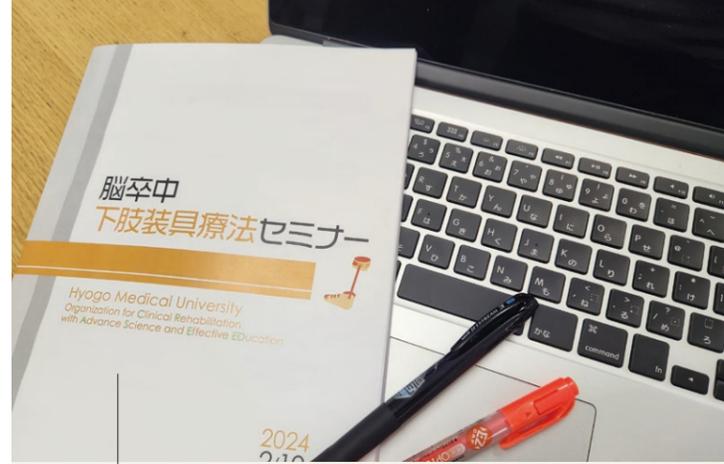
午後からの実習では、「呼吸介助手技」「排痰手技」について、初日と同じく二人一組でお互いに実践練習を行いました。様々な体位での呼吸介助法など、自分で受けてみて初めて、力加減や押される方向で呼吸が楽になったり、逆につらくなったりすることが実感



実際に見て触れることで、より体感的に技術を習得することが出来る

できて、非常に面白かったです。その道のプロフェッショナルならではの実践的で熱い講義、親身になって教えていただく講師陣の熱血指導の実習に盛り上がり、大変熱い2日間でした。

兵庫医科大学病院 川村 美貴 先生



## 脳卒中下肢装具療法セミナーから得た知識の活用

2024年2月10日開催の「脳卒中下肢装具療法セミナー」に参加させていただきましたのでご報告させていただきます。

脳卒中は、我々リハビリテーション科医が臨床に携わる際、最も遭遇する疾患であり、症状が多岐にわたりリハビリテーション治療介入に頭を悩ますことも多くなります。また、リハビリテーション科医として働き始め認識したことですが、装具も多岐にわたり臨床の中で各々の患者様にとってどの装具を選択するかは常に頭を悩ませることであります。

本セミナーは、そのリハビリテーション治療介入を多数のデータを御教授いただく中で、私のような知識及び経験の浅い者にも理解できる内容で御座いました。また、装具治療による歩行再建治療を行う時、歩行障害の原因を見極めるのと同時に装具の特性を理解し、その上で運動療法を組み立てていくという段階的な治療方針も患者様々で診断し決定していくことが重要であり、その診断に関しても一朝一夕では得られない知識、経験の集合体であることを知りました。その短絡的ではなく複合的な診断の上でリハビリ治療が成り立っていることを認識できたことですら当セミナーを受講した意味があったと感じております。

入院中の装具選択、装具を使った治療を施行することは現在臨床にて経験させていただいておりますが、退院後も装具治療は継続されており、帰宅後に痙縮、皮膚トラブル出現することがあります。その場合、現状装具の調整、機能代償用装具作成の処方等を鑑みていくことが重要であり、退院後の装具ユーザーの方々を継続的に治療できる基盤形成が重要であると感じました。

まだまだ自身の研鑽が足りないことを十分に理解するきっかけとなりましたが、今後自身が処方した装具を使用した患者様の歩行能力向上に寄与できるように精進を重ねていく所存です。最後に、この度はこのような機会をお与えいただき、誠にありがとうございました。

みどりヶ丘病院 中川 真一 先生



SEMINAR INFORMATION

## CRASEED 2024年度 セミナー情報

【問い合わせ/申し込み】

NPO法人CRASEED事務局 <http://craseed.org/>

### 脳卒中予後予測セミナー

誰でもできる簡単な予後予測方から脳画像解析の最新知見まで、幅広い知識が身につきます。

【日 時】2024年9月7日(土)10時~16時

【受講料】8,000円

### 実践CI療法講習会

明日から生かせる! CI療法の基礎から実践までじっくり学べます。

【日 時】2024年9月8日(日)10時~16時

【受講料】8,000円

### 脳卒中リハビリテーションの達人になるために

リハビリ医療の大きな柱のひとつである装具療法について、学術的背景や臨床での実践をレクチャーします。

【日 時】2024年9月14日(土)10時~16時

【受講料】8,000円

### 骨盤底筋トレーニングの基礎と臨床

骨盤底筋の基礎知識からトレーニング、症例検討まで幅広く学べます。

【日 時】2025年2月8日(土)10時~16時

【受講料】8,000円

### 西日本公式第25回 ADL評価法FIM講習会

FIMver.3.0の評価基準を、オリジナル動画や具体的な症例を通して詳しく解説します。

【日 時】2025年2月9日(日)

午前の部:9時~12時、午後の部:13時~16時

【受講料】6,000円(午前の部と午後の部は同じ内容です)

### 呼吸理学療法実践セミナー

2日間にわたり正確なアセスメント技術と臨床に即した呼吸理学療法手技の完全マスターを目指します。1日だけの参加も可能です。

【日 時】1日目:2025年2月22日(土)10時~16時

午前:講義、午後:実技演習

2日目:2025年2月23日(日)10時~16時

午前:講義、午後:実技演習

【会 場】兵庫医科大学

【受講料】各日15,000円/両日27,000円

現地開催

講師からの熱血指導! 実技を直接目で学べます!